

令和4年度 NPO活動資金助成団体・助成事業一覧

No.	区分	団体名	事業名	助成額(円)
1	スタートアップ事業	NPO法人 子どもアドボカシーをすすめる会TOKYO	子どもの権利と子どもアドボカシーを知る集い	185,200
2		すぎなみ食育推進の会	食育推進プロジェクト 栄養素を知れば体は丈夫になる	41,909
3		特定非営利活動法人 防災コミュニティネットワーク	ボウサイおそうじ大作戦！	228,868
4		特定非営利活動法人 まちのおやこテーブル	多世代コミュニティ事業「まちの持ち寄りカレッジ」	38,185
5		特定非営利活動法人 モナミセブン	親や先生に知ってほしい「子どもの高次脳機能障害」	200,000
6	ステップアップ事業	特定非営利活動法人 久我山からー	久我山イマ→ミライ学校 ～多世代で創る地域の環～	17,015
7		特定非営利活動法人 グローイングピープルズウィル	ICTを活用した移動制約者のための移動円滑化計画	150,000
8		特定非営利活動法人 DANKAIプロジェクト	みんなの食堂ルンルンとルンルン学習室	112,600
9		特定非営利活動法人 てんぐるま	つながって 支え合おう 杉並プロジェクト	0
合計 9件				973,777

NPO活動資金助成金対象事業報告書(令和4年度)

団体名	NPO法人子どもアドボカシーをすすめる会TOKYO
事業名	子どもの権利と子どもアドボカシーを知る集い
事業(該当区分に○)	①. スタートアップ事業 2. ステップアップ事業
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利と子どもアドボカシーを知るための集いを大人対象と子ども対象で開催する。対象は区民、区内在学・在勤者とする。 ・大人対象: 講演会の後に講師とのフリーディスカッションを開催(大人が子どもの権利を知り何ができるかを考える機会)する。 ・子ども対象: 子どもワークショップを開催する(子ども自身が子どもの権利を知る機会)。 ・終了後報告書作成、関係機関に配布し普及啓発に資する。
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども自身が子ども権利を知ること、区民が子どもの権利を知り自身ができることを考える機会をつくり、子どもの人権・権利、そして子どもアドボカシーの普及啓発、推進をする。 ・弊会が実践を予定している子どもアドボカシーの活動者のスクリーニング(活動の入り口づくり)をする機会とする。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	①実施対象者・対象人数(延べ人数) ●イベント1(大人向け講演会) 杉並区在住・在学・在勤者等、60名定員 ●イベント2(子ども向けワークショップ) 杉並区在住・在学の子どもの(小学生～高校生)20名	●イベント1(大人向け講演会) 杉並区在住・在学・在勤者等、53名 ●イベント2(子ども向けワークショップ) 杉並区在住・在学等の子ども(小学生～高校生)4名、おとな18名
	②実施内容 ●イベント1(大人向け講演会) ゲスト: 朝日新聞社 社会部編集委員 大久保真紀さん 流 れ: 大久保さんの講演(60分)→10分休憩→参加者のGW+大久保さんと会場とのやりとり→まとめ ●イベント2(子ども向けワークショップ) 講師: 常葉大学保育学部保育学科 准教授 山屋春恵さん (草薙基礎教育センター副センター長) 流 れ: 山屋さんのおはなし(30分)→10分おやつ休憩→ワークショップ→10分おやつ休憩→意見共有・まとめ	②実施内容 ●イベント1(大人向け講演会) ゲスト: 朝日新聞社 社会部編集委員 大久保真紀さん 流 れ: 大久保さんの講演+参加者のGW+大久保さんと会場とのやりとり→まとめ(途中休憩とカフェタイムあり) ●イベント2(子ども向けワークショップ) 講師: 常葉大学保育学部保育学科 准教授 山屋春恵さん (草薙基礎教育センター副センター長) 流 れ: アイスブレイク→山屋さんのお話し→ワークショップ→おやつをとりながら意見共有・まとめ(子どもの権利のお話)
	③実施回数・スケジュール・実施場所 ●イベント1(大人向け講演会 実施回数1) 2022年11月12日(土)14:00～16:00 産業商工会館展示場 ●イベント2(子ども向けワークショップ 実施回数1) 2022年12月3日(土)13:30～15:30 産業商工会館展示場	③実施回数・スケジュール・実施場所 ●イベント1(実施回数1) 2022年11月12日(土)14:00～16:00 産業商工会館展示場 ●イベント2(子ども向けワークショップ 実施回数1) 2022年12月3日(土)13:30～15:00 産業商工会館展示場
	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) ●イベント1(大人向け講演会) 事務局5名、受付・安全管理アルバイト3名 ●イベント2(子ども向けワークショップ) 事務局5名、学生リーダー4名	●イベント1(大人向け講演会) 事務局8名、受付・安全管理アルバイト3名 ●イベント2(子ども向けワークショップ) 事務局4名、学生リーダー3名
	⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) ●イベント1(大人向け講演会) ウェブサイト、チラシ配布、区広報(9月16日号予定)、SNS、すぎなみ地域コム、関係団体へのお声かけ ●イベント2(子ども向けワークショップ) ウェブサイト、チラシ配布、区広報(10月)、SNS、すぎなみ地域コム、関係団体へのお声かけ	●イベント1(大人向け講演会) ウェブサイト、チラシ配布、区広報(10月1日号)、SNS、すぎなみ地域コム、関係団体へのお声かけ ●イベント2(子ども向けワークショップ) ウェブサイト、チラシ配布、区広報(11月1日号)、SNS、すぎなみ地域コム、関係団体へのお声かけ

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

		事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉法の一部が改正されるが、改正の目的は児童の権利擁護事業推進のためとなっている。子ども権利保障に向けた動きが国都道府県レベルで活発になってきている。 ・令和8年に杉並区立児童相談所の設置が予定されており、児童相談所の設置とともに、子どもの権利擁護を保障するまちづくりが急務である。杉並区においても、杉並区立児童相談所開設を見据え、杉並区子ども家庭支援センターワーカーを対象に、子ども権利擁護推進に関する研修を行い、子ども権利保障に向けて動き出している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・申込の問合せや実施後のアンケートにおいて、子どもの権利や子どもアドボカシーに対する関心の高さが把握できた。 ・一般区民は「自分は子どもアドボカシーにどのようにかかわれるか、どうしたら広がるのか」、関係機関の方たちは「自分たちの職場(現場)ではどのように展開していったらよいか」ということに関心が高い状況がみられた。 ・一方で、子どもアドボカシーに対する正しい理解が充分にいきわたっていないこともあり(例:子どもの意見を聴いたら子どもはわがままになるのではないかな等)、正しい理解に向けた取り組みの必要性を感じた。
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
	<input type="checkbox"/> ①あった <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねあった <input type="checkbox"/> ③あまりなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどなかった		
	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・弊会は杉並区主催の令和3年度子ども家庭支援センターワーカーを対象とした子どもの権利(意見表明権)に関する研修に参画し、プログラム提供、講師派遣を行っている。 ・地域内にある児童養護施設と協力関係にあり、区内関係機関とともに、子ども権利擁護推進を展開することが可能と考えている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・講師の依頼において、団体のネットワークと実践を活かすことができた。 ・区内児童養護施設との連携についてはコロナの関係もあり難しかったが、区内の子ども関連団体や社会福祉協議会、民生児童委員さんとながり、これらの皆様の力やご示唆を得ることができた。
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください			
<input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった			
当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。			
<ul style="list-style-type: none"> ・杉並区立児童相談所の設置が決定したことを契機に、区民が子どもの人権、子どもアドボカシーを知るきっかけとなる。 ・意見交換・ワークショップ等を通じ、子どもの権利保障を進める地域づくりに、区民参加の機会を提供できる。 ・子どもたちが、子ども自身が持っている権利を具体的に知る機会をつくる。 ・子どもの人権、子どもアドボカシーの推進は、単年度で終了するものではない。本事業を継続することにより、多くの区民の参加と教育・福祉・保健等の専門領域への働きかけ(例:母子保健手帳配布時に子どもの人権、子どもアドボカシーのパンフレットの添付等)を行うなどの事業を展開しつつ、子どもの人権、子どもアドボカシー推進の気運を高めることが期待される。助成事業終了後は寄付金や会費を利用し事業を継続する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・参加者は限定されてはいるが、子どもの権利の重要性、子どもアドボカシーの正しい理解につながる機会にはなったと感じている。 ・また、参加者からは様々な展開の方向性のご示唆をいただき(杉並区で展開していくにはどうしたらよいか等々)、何よりも地域の子もたち、関係者、関係団体とつながることができたのは大きな成果である。 ・イベント2のこどもワークショップに参加した子どもたちの一部は、当会への運営にも参加していただくことにつながっている(子ども主体、子ども参加の一步)。 	
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください			
<input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった			
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。			
<ul style="list-style-type: none"> ・開催後、情報提供可能な方には当会の定期勉強会のご案内をするなどしている。 ・今回のイベントで民生児童委員、社会福祉協議会、地域の関係団体と新たにつながることができ、大きな成果である。 ・子ども向けワークショップに参加した子どもたちの一部は、当会への運営にも参加していただくことにつながっている(子ども主体、子ども参加の一步)。 			
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください			
<input checked="" type="checkbox"/> ①広がった <input type="checkbox"/> ②多少広がった <input type="checkbox"/> ③広がらなかった			

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	<p>●イベント1(大人向け講演会) 参加人数は予定より若干少なかったが、開催規模や内容についてはおおむね予定通り開催できたと思う。</p> <p>●イベント2(子ども向けワークショップ) 参加者を確保することに大変苦慮した。曜日や時間の設定が参加者の立場(小学生～高校生)を十分考慮できなかったことは反省すべき点である。当日のワークショップの内容については予定どおり実施できた。また、参加者が少なかった分、一人ひとりの子どもには丁寧に対応できその点は良かったと感じている。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった</p>

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	<p>●イベント1(大人向け講演会) ①チラシに明示する、②イベント当日に助成金について説明、③旗やタペストリーの掲示、④事後アンケートで認知を問うなど、できるだけ基金の名称を出すことにつとめた。当日募金は参加者にコーヒーを提供したが、コーヒー代として募金して下さる方もいた。</p> <p>●イベント2(子ども向けワークショップ) ①チラシに明示、②旗やタペストリーの掲示にとどまった。子ども対象のイベントであったため、当日の対応はほとんどできていない。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input checked="" type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった</p>

5 課題と今後の活動について

今後の課題と活動	<ul style="list-style-type: none"> ・これから区内で子どもアドボカシー実践を展開していくが、アドボケイトとして活動する人材養成・確保が必要と感じている。区民や関係機関の皆さんにおいて一定の関心があることは把握できたが、区民等をどのようにアドボケイトにつなげていくか、関係機関とどのようにつながり、連携していくかを改めて考えたい。 ・子どもアドボカシーはすべての子どもに必要な取り組みである。社会的養護のもとで暮らす子どもたちだけが対象ではない。幼稚園や保育所、児童館や学童クラブ、学校教育の関係者等々にも関心をもっていただくためのアプローチが必要である。 ・広報力のなさ、情報発信力のなさを痛感した。とりわけ子ども参加を重要視しているにもかかわらず、子どもたちに情報を発信できていないことは大きな課題であると感じた。今回つながった子どもたちの力もかりつつ、情報発信の方法やあり方を改善していきたい。
----------	---

6 活動状況について

★具体的な活動風景の写真などを貼付



7 収支決算

事業費	[D]	268,893	助成金	[E]	185,200
-----	-----	---------	-----	-----	---------

収入		予算額	決算額	決算額内訳
	団体負担金	37,000	83,693	
	参加費・資料代等			
	その他の収入			
	計	[C] 37,000	[F] 83,693	自己資金等
	助成金	[B] 200,000	[E] 185,200	NPO活動資金助成金
合計	[A] 237,000	[D] 268,893		

費目	予算額		決算額		決算額内訳			
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費				
①謝礼金等 (講師が団体内部 の場合は対象外)			35,000	10,000	イベント1 講師謝金@15,000×3時間×1名			
			15,000		イベント1 保安要員@5,000×3名			
			40,000		イベント2 講師謝金@10,000×4時間×1名			
			18,000		イベント2 学生リーダー謝金@1,500×4時間×3名			
	小計	114,000	10,000	108,000	10,000			
②旅費・交通費				6,000	イベント1 保安要員交通費@2,000×3名			
				12,260	イベント2 講師交通費(東京～静岡)			
				6,000	イベント2 学生リーダー交通費@2,000×3名			
	小計		0	24,260				
③備品費・消耗品費			5,000	1,479	イベント1 ICレコーダー購入			
			2,200		イベント2 文具類購入			
				2,891	イベント2 おやつ代			
小計	13,000	11,000	7,200	4,370				
④通信運搬費			19,000	36,120	案内チラシ送付切手代@84×430			
				5,108	報告書送付切手代@84×287			
小計	22,000	16,000	19,000	41,228				
⑤印刷製本費 (デザイン・原 稿作成含む)			1,000	2,080	イベント1 チラシ印刷代			
			10,000	175	イベント2 チラシ・ポスター印刷代			
			20,000	350	イベント1 報告書制作・印刷代			
			20,000	350	イベント2 報告書制作・印刷代			
小計	51,000		51,000	2,955				
⑥使用料・賃借料								
小計			0	0				
⑦その他の経費				880	振込料@220×4か所			
小計			0	880				
合計			185,200	83,693	14,800 戻入額[B]-[E]			
	[B]	200,000	[C]	37,000	[E]	185,200	[F]	83,693
	[A]	237,000	[D]	268,893				

☆ 注意事項(1)単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。(2)団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。

NPO活動資金助成金対象事業報告書(令和4年度)

団体名	すぎなみ食育推進の会
事業名	食育推進プロジェクト 栄養素を知れば体は丈夫になる
事業(該当区分に○)	①. スタートアップ事業 2. ステップアップ事業
事業概要	「楽しく学ぶ食育」をモットーに座学の面からは、食事の持つ役割と食物の栄養素および体内における代謝をライフステージ(世代・性差)ごとに学びます。また、体験型学習では区内に畑を有し種苗から植え付け・生育・収穫までを通じて食の大切さを学びます。ワークショップ形式による参加者同時の意見交換からより実践的な学習の場もあります。
事業目的	食育推進活動をするために必要な知識と技術を学ぶため、個人および諸団体と協働して「楽しく学ぶ食育」をモットーに各種プログラムを開発し、それを講演することを目的とする。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	①実施対象者・対象人数(延べ人数) (1)イベント1より、ファミリー及び高齢世代(10名) (2)イベント2より、ファミリー及び高齢世代(10名) (3)イベント3より、ファミリー及び高齢世代(20名) (4)イベント4より、ファミリー世代(2団体×15名)	(1)高齢世代(12名)の参加を頂く (2)親子での参加(4名)および高齢世代(4名)の参加を頂く (3)男女(各1名)の参加を頂く (4)親子での参加(16名) 子どものみの参加(5名)
	②実施内容 (1)イベント1より、食材の栄養と食事大切さを学ぶ (2)イベント2より、食材の見極め方・栄養素を学ぶ (3)イベント3より、災害時における食事情を考察 (4)イベント4より、野菜の収穫体験および調理	(1)当初予定の日程に際し、通信環境が構築できず後日に再講演を行う。 (2)講師との対話形式により実施する。 追加講習として「減災教育支援プログラム」も実施する。 (3)杉並区防災課・当該施設の担当者の協力を得、備蓄倉庫の見学も行う。 (4)多くの親子参加を頂く。また、協賛団体様のご協力も頂く。 *地域課担当者2名の視察も受ける。
	③実施回数・スケジュール・実施場所 (1)イベント1より、リアル講習／産業商工会館 (2)イベント2より、杉並区立産業商工会館 (3)イベント3より、杉並区立産業商工会館 (4)イベント4より、体験型学習／当該団体施設	(1)オンライン講習／阿佐谷地域区民センター(第6集会室) (2)ゆうゆう井草館(第2集会室) (3)阿佐谷地域区民センター(第6集会室) (4)シェア畑井草農園／子ども食堂(良ちゃん・井草) ／子ども食堂(みんなの食堂・ルンルン)
	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) <実施日> (1)イベント1より、人員3名(講師含む) 6月29日(水) (2)イベント2より、人員3名(講師含む) 10月30日(日) (3)イベント3より、人員5名(講師含む) 9月19日(月) (4)イベント4より、人員3名(講師含む) 7月18日(月) 体験型学習(野菜収穫／調理)	(1)オンライン講習／人員3名(講師含む) (2)講演会および対話形式／人員3名(講師含む) (3)講演会および対話形式／人員3名(講師含む) (4)体験型学習(野菜収穫／調理)／人員3名(講師含む)
	⑤広報活動 (1)イベント1より、一般公募(チラシ配布) (2)イベント2より、一般公募(チラシ配布) (3)イベント3より、一般公募(チラシ配布) (4)イベント4より、子ども食堂(区内6団体)	(1)福祉および高齢者施設へ案内するも当初日程が合わず、後日に再訪し実施する。 (2)子ども食堂および高齢者施設へ案内する。 (3)地域を限定してのチラシ配架(阿佐谷地区／高円寺地区) (4)子ども食堂(区内2団体)へ案内する。

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

事業計画時		事業実施後	
当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。			
(1)イベント1より、食事の大切さ 対象者はファミリー世代(親子) (2)イベント2より、食材とその栄養素 対象者はファミリー世代(親子) (3)イベント3より、災害時における食事の在り方 対象者はファミリーおよび高齢 (4)イベント4より、野菜収穫体験および調理 対象者はファミリー世代(親子)		(1)引き合いを頂いた方々は高齢世代 <健康に関心のある70代の参加> (2)親子および高齢世代 <各世代で関心あり> (3)専門で活躍されている方々 (4)多数の親子での参加 <体験型学習の楽しさ>	
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください <input checked="" type="checkbox"/> ①あった <input type="checkbox"/> ②概ねあった <input type="checkbox"/> ③あまりなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどなかった			
団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。			
<イベント(講習会)開講にあたり> 座学に於いては、講師は当会の会員が担当 その専門性を活かした講習とする。 また、ワークショップ形式による双方向での対 話型にて理解を深める。 体験型学習に於いては、当会が耕作する畑に おける収穫および調理体験の実施		・イベント3「災害時における食事情」開講にあたり 地域特性(阿佐谷地区)を重視したため集客に戸惑う。 しかしながら、参加者は少数であるも、いずれも 「食」および「災害」の専門分野で活躍されている方々で 当会員もいろいろと学ばせていただきました。 ・イベント4「夏野菜たっぷりの調理実習」では、当会が 耕作する畑(井草地区)の近隣で活動する団体より 引き合いをいただき、野菜の収穫および調理体験を 実施する。	
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください <input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった			
当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。			
「楽しく学ぶ食育」のモットーから、 各世代ごとに「各種プログラム」を用意する。 ライフステージ(世代・性差)に応じての対応。 また、双方向による対話形式にての講習。 更には、体験型学習により理解を深める。 持続性に於いて、「講演会」「勉強会」 「ワークショップ」の定期開催 発展性に於いて、「NPO団体」「事業者」 「行政」との関係づくり、および活動		イベント1および2に関しては、対象者および参加人数 また、講習内容にも概ねの効果をあげることができた。 イベント3に於いては、「開催時期」「地域特性」を熟考し 集客をはかるも応募人数は少なく、集客方法に戸惑う。 イベント4に於いては、対象者・参加人数および内容とも 「期待される効果」をあげることができた。 「NPO団体」「事業者」様からは次年度に向け「講演会」 「ワークショップ」の依頼を受ける。また、「勉強会」は 当会内に於いて継続的に実施。<持続性・継続性> 当事業の活動にあたり、ご指導をいただきました。 「地域課」「防災課」との関係構築<発展性>	
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください <input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input checked="" type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった			
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。			
<対象者> イベント3に於いて、栄養士また(元)消防士の方が受講され今後の活動でお力添えを頂けることとなる。 <NPO団体・事業者> イベント2に於いて、四季を鑑みて「旬の食材」講座(年/2回)の企画を双方で検討する。 イベント4に於いて、「野菜の収穫体験」への参画および協賛を頂ける。 <行政など> イベント3に於いて、区役所・防災課より冊子「東京くらし防災」および「即席みそ汁」の提供を受ける。 また、「防災備蓄倉庫」の見学に際し当該施設の担当者の協力を得た。			
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください <input checked="" type="checkbox"/> ①広がった <input type="checkbox"/> ②多少広がった <input type="checkbox"/> ③広がらなかった			

効果・成果
及び
自己評価

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	イベントすべて(4企画)に於いて、実施内容・対象者・体制・方法等、予定どおり概ね対応できたと思います。 集客方法については、区からの助言を受け、より広く集客できるよう対応しました。
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください <input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	4つのイベント(講演会・体験型学習)すべてにおいて、講演前のあいさつ時に「杉並区NPO活動資金助成事業」による活動である旨を伝える。 また、チラシ制作に際しては地域課・担当者さまよりご指導をいただきました「杉並区NPO活動資金助成事業」の明文を記しました。 当日は、会場の外に於いて「のぼり旗」を掲揚し、会場内では「タペストリー」を掲げ、「募金箱」を設置しました。 しかしながら、「募金」までには至りませんでした。
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください <input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった

5 課題と今後の活動について

今後の課題と活動	対象者募集に際しては、区からの助言を受け、より広く集客できるよう対応しました。 今後の活動といたしましては、当事業を通じて得ました多くの事象(運営方法/事業団体・個人)を参考といたしましてより良い活動を模索いたします。
----------	--

6 活動状況について

★具体的な活動風景の写真を貼付



7 収支決算

事業費	[D]	61,459	助成金	[E]	41,909
-----	-----	--------	-----	-----	--------

収入		予算額	決算額	決算額内訳
	団体負担金	12,000	19,550	
	参加費・資料代等	20,000		
	その他の収入			
	計	[C] 32,000	[F] 19,550	自己資金等
	助成金	[B] 50,000	[E] 41,909	NPO活動資金助成金
	合計	[A] 82,000	[D] 61,459	

支出	費目	予算額		決算額		決算額内訳
		助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費	
	①謝礼金等 (講師が団体内部 の場合は対象外)					
	小計	0	0	0	0	
	②旅費・交通費			3,000		イベント1/スタッフ交通費(500円×2×3名)
				3,000		イベント2/スタッフ交通費(500円×2×3名)
				3,000		イベント3/スタッフ交通費(500円×2×3名)
	小計	17,000	0	15,000	0	イベント4/スタッフ交通費(500円×2×3名×2ヶ所)
	③備品費・消耗品費			14,443		文具一式(印紙・インク・ほか)
				1,292		感染症対策用品(消毒用アルコール)
					4,000	書籍代
	小計	17,000	6,000	15,735	4,000	
	④通信運搬費					
	小計	0	0	0	0	
	⑤印刷製本費 (デザイン・原 稿作成含む)				2,000	イベント1/配布資料代(200円×5部)+チラシ代
					3,000	イベント2/配布資料代(200円×15部)+チラシ代
					2,000	イベント3/配布資料代(200円×5部)+チラシ代
	小計	0	18,000	0	13,000	イベント4/配布資料代(200円×20部)+チラシ代
	⑥使用料・賃借料			900		イベント1/会場使用料(阿佐谷地域区民センター)
				0		イベント2/会場(ゆうゆう井草館)
				1,000		イベント3/会場使用料(阿佐谷地域区民センター)
	小計	3,000	0	1,900	0	イベント4/会場(シャア畑/子ども食堂)
	⑦その他の経費				450	イベント1/飲料代
				2,905	450	イベント2/材料代+飲料代
				1,080	750	イベント3/防災食代+飲料代
	小計	13,000	8,000	9,274	2,550	イベント4/材料代・防災食代+飲料代
	合計			41,909	19,550	8,091 戻入額[B]-[E]
		[B] 50,000	[C] 32,000	[E] 41,909	[F] 19,550	
		[A] 82,000	[D] 61,459			

☆ 注意事項(1)単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。(2)団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。

NPO活動資金助成金対象事業報告書(令和4年度)

団体名	特定非営利活動法人防災コミュニティネットワーク
事業名	ポウサイおそうじ大作戦！
事業(該当区分に○)	①. スタートアップ事業 2. ステップアップ事業
事業概要	毎月1回、西荻窪エリアでボランティアの協力を得ながら清掃活動を実施し、地域住民とのつながりの場を創出する。防災の視点から清掃活動を行うことで、災害時に危険となる箇所を洗い出し、地図に落とし込む。その結果を地域住民と共有することで地域防災の一翼を担うことを目的とする。
事業目的	本事業は毎月1回、西荻窪エリアを中心に防災の視点からの清掃活動を実施する。地域の危険箇所の把握と改善、その結果を地図に落とし込み住民と共有すること、ボランティアをはじめとした多種多様な人たちの参加による新たな地域住民同士の繋がりを目的とする。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	<p>①実施対象者・対象人数(延べ人数) 【対象者】区内在住、在学、在勤者、区内外ボランティア 【参加予定人数】各回 ボランティア15名、地域住民10名 延べ人数224名を予定</p>	<p>①実施対象者・対象人数(延べ人数) 【参加者内訳】 ・6月26日25名(ボラ21名・地域住民4名) ・7月17日62名(ボラ50名・地域住民12名) ・8月28日128名(ボラ110名・18名) ・9月18日※台風のため中止 ・10月30日11名(ボラ9名・地域住民2名) ・11月6日29名(ボラ24名・地域住民5名) ・11月20日22名(ボラ15名・地域住民7名) ・12月18日31名(ボラ22名・地域住民9名) ・1月15日20名(ボラ16名・地域住民4名) ・2月19日10名(ボラ8名・地域住民2名)</p>
	<p>②実施内容 学生ボランティアの協力を得ながら、防災目線での地域清掃活動を実施する。清掃中に気づいた地域の危険箇所などを防災士監修のもと地図に落とし込み住民と共有する。</p>	<p>②実施内容 ・すぎナビ電子地図サービスを活用し、当事業を行った。 ●清掃の視点/住宅街は比較的きれいでゴミが少なかったが、公園内はたばこの吸い殻、酒類の缶ゴミなどが夏の季節は特に多かった。屋内での会食の人数制限がされていたが屋外ではマスク着用が緩和された点も一つではないか、と意見があった。 ・マンション周りの植木に隠すようにゴミを捨てている例もあった。 ●防災の視点/古い消火器、新しい消火器が混在している。古い消火器は設置箱が大きく遠くからでも見つけやすい反面、設置場所は分かりづらいという印象。新しい消火器(透明ケースのもの)はスリムでコンパクトであるが目立ちにくく遠くからは見つけづらいのではないかと意見あり。 ・桃井原っぱ公園付近住宅街(上荻4丁目付近)では十字路にカーブミラーがなく事故が多いのではないかとボランティアから意見有り。その近辺に住む参加者から、よく衝突事故が起きると報告があった。</p>
	<p>③実施回数・スケジュール・実施場所 【回数】毎月1回日曜日開催 全9回 【実施場所】西荻窪エリア</p>	<p>③実施回数・スケジュール・実施場所 【実施回数】全9回(台風の影響により、1回順延) 【実施場所】新町鳥居先～桃井原っぱ公園エリア・関根文化公園～西荻窪駅周辺エリア・善福寺公園周辺エリアの3箇所を中心に清掃活動を行った。 計画の通り実施できた。</p>
	<p>④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) ボランティア15名(有償ボランティア5名、無償ボランティア10名)地域住民10名、防災士1名、ボランティアコーディネーター1名、団体スタッフ3名</p>	<p>回を重ねる毎にボランティア参加を希望する学生が増加。8月は約100名の参加者が集まり地域清掃活動を行った。夏休み期間ということもあってか友人同士、ご夫婦で参加してくださる方も多かった。良かった点としては、他の地域からのボランティア参加者の視点と区内在住の参加者の視点で意見交換ができたことではないかと感じる。他の地域の人から、杉並区はゴミが少なくとてもきれいだったと言われて誇らしかった、参加してよかったと言う言葉をいただいた。</p>
	<p>⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) でんごん君ポスター掲示、SNS(Twitter、LINE、HP周知)</p>	<p>・Twitterでの周知を強化した。新たにInstagramも活用した ・でんごん君を活用した。 ・計画の通り広報活動を行うことができた。</p>

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

		事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。		
		令和3年度に実施のボウサイウォークにおいてご参加いただいた町会長様より地域清掃と防災の関わりあいについてお話をいただいた。日頃から地域清掃活動を行うことで防災・減災に繋がる。町会や防災会、消防団への加入も減少傾向にあるため、参加しやすい環境づくりと仕組みを構築する。	若い世代のボランティア、特に学生のボランティアが多数参加した。防災活動だからという明確な参加意識というより、参加しやすいボランティア活動というところでの申し込みが多かった。結果、意識していなかった防災への意識向上や知識を習得することにつながったと言える。特に町会とのコラボレーションは大きな成果であり、町会や防災会などへの若者の参画を促すきっかけができたと共にやはり若者の町会離れは課題の一つとして残った。
		【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください	
		<input checked="" type="checkbox"/> ①あった <input type="checkbox"/> ②概ねあった <input type="checkbox"/> ③あまりなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどなかった	
	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。		
		当団体は防災をととしたコミュニティの形成とそのネットワークの構築を目的とし活動し多くの学生ボランティアからの協力も得ている。地域の担い手となる若者をどう巻き込んでいくか、その先にある新しいコミュニティの在り方を当団体と町会、防災会との連携を強めるきっかけとしても有効な事業と考えている	当団体の強みの一つでもある若い世代のボランティアとのつながりを生かし、多くの学生ボランティアの協力を得ながら事業を実施することができた。杉並区地域課とすぎなみ協働プラザからお誘いをいただいて参加している地域円卓会議で知り合った町会長との連携も図ることができ目的を達成できた。
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
	<input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった		
当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。			
	防災視点での地域清掃を行うことで危険個所の把握やその対策を講じるきっかけを生み出すことができる。回を重ねるごとに地域住民同士のつながりの形成も期待できる。毎月1回定期的に開催することでボランティアの定着、地域住民の参加者数の増加を目指し、事業終了後も自主的に進めていけるように事業終了後は伴走型の支援に切り替えて活動を行う。	前段にも記載した通り、防災×清掃活動は参加における敷居が低く誰でも気軽に活動しやすいことが今回多くの参加者を獲得することに繋がっていることが大きな成果と考える。防災視点では天候によっては傘で隠れて歩行者には見えづらい位置にある標識も発見できた。また、防災マップに表示されている位置から微妙にずれていた民家の植木に隠れてしまっている消火器がある等も見受けられた。今後このような内容をフィードバックすることでより大きな効果を生み出すことができると考える。	
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
	<input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった		
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。			
	SNSを活用し周知を行うことで、区内で活動する団体にも当団体の活動を知っていただくことができた。また清掃活動の利点として、ゴミ袋やトングを持って地域を歩いていることでどこから見ても清掃活動をしていることがわかることで、活動中に近所の方にご苦勞様と声をかけていただくことも多かった。加えて町会長からD級ポンプ、消火水槽の説明など活動に参加する若者に地域が行う防災活動、町会活動などをご教示いただくことができた。		
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
	<input checked="" type="checkbox"/> ①広がった <input type="checkbox"/> ②多少広がった <input type="checkbox"/> ③広がらなかった		

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	計画の通り実施できた。街中の防災標示だけではなく危険個所にも目を向けながら清掃活動を行うことで学びの場となり、より良いまちづくりに繋がるとも有益な事業だと。参加者の防災に対する興味を存分に引き出す事業展開ができたと考える。
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください <input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	SNS・チラシ配布を重点的に行うことでNPO支援基金の普及啓発活動に努めた。屋外活動のため、じっくりとチラシを見ていただくことは難しかったが参加者の手元に渡ることによってそれぞれが時間のあるときに見ていただくようお声かけにも取り組んだ。以上のことから啓発活動に取り組めたと考える。
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください <input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった

5 課題と今後の活動について

今後課題の活動	当事業を終えて見えてきた新たな課題は、地域活動をおこなう年代に偏りがあることに気づかされた、特に30代～60代の参加者は少なく実生活の忙しさからか、なかなか参加者が増えなかった。今後は多世代にわたる参加者を取り入れるための工夫と地域住民の参加率の増加を目指すことが必要になると感じた。
---------	--

6 活動状況について

★具体的な活動風景の写真を貼付



7 収支決算

事業費	【D】	278,511	助成金	【E】	228,868
-----	-----	---------	-----	-----	---------

	予算額		決算額		決算額内訳
収入	団体負担金	136,400		49,643	
	参加費・資料代等				
	その他の収入				
	計	【C】 136,400	【F】 49,643		自己資金等
	助成金	【B】 235,000	【E】 228,868		NPO活動資金助成金
合計	【A】 371,400	【D】 278,511			

費目	予算額		決算額		決算額内訳
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費	
①謝礼金等 (講師が団体内部 の場合は対象外)				28,000	防災士@4,000円 × 7回
			22,500		ボランティアコーディネーター
小計	22,500	28,000	22,500	28,000	
②旅費・交通費				3,460	掃除道具運搬駐車場代@3,460円
小計	6,900	6,600	0	3,460	
③備品費・消耗品費			10,560		書籍代 専門書4冊
			37,708		掃除道具運搬用ワゴン@17,908円収納BOX@19,800円(5個)
			83,200		ピプス@1,664円 × 50枚
			4,900	13,893	ゴミ回収箱@4,900円 × 2個、掃除道具、備品ケース@8,993円
小計	135,600	35,000	136,368	13,893	
④通信運搬費					
小計	0	2,000	0	0	
⑤印刷製本費 (デザイン・原 稿作成含む)					
小計	0	7,200	0	0	
⑥使用料・賃借料			25,000		会場使用料@5,000円 × 5回
小計	25,000	0	25,000	0	
⑦その他の経費			45,000		ボランティア実費弁償@1,000円 × 5人 × 9回有償ボランティアリーダー5人分
				4,290	行事保険
小計	45,000	57,600	45,000	4,290	
合計			228,868	49,643	6,132 戻入額【B】-【E】
	【B】 235,000	【C】 136,400	【E】 228,868	【F】 49,643	
	【A】 371,400		【D】 278,511		

☆ 注意事項(1)単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。(2)団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。

NPO活動資金助成金対象事業報告書(令和4年度)

団体名	特定非営利活動法人まちのおやこテーブル
事業名	多世代コミュニティ事業「まちの持ち寄りカレッジ」
事業(該当区分に○)	① スタートアップ事業 2. ステップアップ事業
事業概要	出産・育児を地域とつながる機会と捉え、親が知りたいこと(保育園・幼稚園事情、病院、子どもとお出かけしやすいスポット等)を同じ街に暮らす先輩に聞き、逆に働き盛り世代でもある親が持つ仕事や趣味の経験やノウハウを街の人とシェアする場として、「まちの持ち寄りカレッジ」(仮称)を運営する。地域のコミュニティスペースを教室に見立て、今年度は「パパビギナークラス」と「すぎなみビギナークラス」を開催する。
事業目的	親子が地域の多様な住民と出会い、分からないことや不安なこと、知りたいことを気軽に聞いたり、教え合える日常的な関係を作る「はじめの一步」の場を本事業で作ることで、親子が地域とつながりを持ちながら成長するとともに、働き盛り世代と地域をつなぐことで杉並区の多世代コミュニティづくりの一助となることを目的とする。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	①実施対象者・対象人数(延べ人数) パパビギナークラス:0歳から2歳程度の子どもの子育て中の父親及びプレパパ10名程度、すぎなみビギナークラス:大学生や若手社会人、杉並区に転入した方10名程度、各ガイド・先輩役3-5名 延べ90名	パパビギナークラス:父親と子ども、先輩役延べ24名、すぎなみ魅力発見クラス:参加者延べ25名 総計49名
	②実施内容 パパビギナークラス:第1回:育児のコツ!寝かしつけ、離乳食の作り方、第2回:どうしてる?夫婦の分担、仕事との両立、父親の出番づくり、第3回:どうなる?どうする?子連れでお出かけ・旅行 すぎなみビギナークラス:第1回:すぎなみ一押しスポット・知りたいスポット、第2回:まちの魅力発見ツアー、第3回:すぎなみで子育て・教育する魅力	パパビギナークラス:計画通り実施 すぎなみ魅力発見クラス:クラス名を変更、模造紙四枚分サイズの杉並区の白地図に参加者が持ち寄ったスポット情報を載せて第1回から第3回にかけて完成するよう連続性を持たせた。
	③実施回数・スケジュール・実施場所 ・パパビギナークラス:阿佐ヶ谷エリア・荻窪エリアのコミュニティスペースで7月から8月の週末、全3回、各回1時間程度 ・すぎなみビギナークラス:同エリアで11月から1月の週末、全3回、各回1時間半程度	パパビギナークラス:7/9(土)、7/23(土)、8/6(土) いずれも10:00-11:00、阿佐ヶ谷地域区民センター すぎなみ魅力発見クラス:11/12(土)10:00-11:30 天沼区民集会所、12/10(土)10:00-11:30 まちサロンおきやんち * 第2回は11/23(祝)に西荻窪北エリアの街歩きを予定していたが雨天中止。
	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) スタッフ3-5名程度、設備①簡易子どもスペース、設備②先輩役やスタッフのオンライン参加、配布物(教材、地図)	パパビギナークラス:スタッフ5名(7/9)、5名(7/23)、4名(8/6) すぎなみ魅力発見クラス:スタッフ6名(11/12)、5名(12/10) 簡易子どもスペースは毎回設置、先輩のオンライン参加は会場との温度差を考慮して実施せず、配布物は予定通り配布。
	⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) チラシ配布、団体Webサイト、SNS、広報すぎなみ、すぎなみ地域コム、子育て世代向けに活動するNPO、不動産会社	計画通り実施したほか、会場付近での当日呼び込み、子育て世代向けに活動するNPOのイベント会場でのチラシ配布、会場として利用したまちサロンおきやんちの通信掲載、弊法人が利用しているコワーキングスペースの登録者への案内を実施。

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

事業計画時	事業実施後
<p>当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。</p>	
<p>男性の子育てや杉並区での暮らしに関して気軽に聞けるリアルな対話の場、双方向の学び合い、子どもと一緒に参加できる場へのニーズ</p>	<p>アンケートによると、パパビギナークラスは「子育て中の当事者同士、話をする機会をもつてこなかった。非常に新鮮な体験だった」等の当事者ニーズがあったことに加えて、「知らない世界が広がっていた」「自分もやらなければという気持ちになり、子育てに前向きな気持ちになれた」等、プレパパにも参加意義があったと考えられる。すぎなみ魅力発見クラスは転入したばかりの親子が知りたいことをその場で聞けたほか「友人同士では知ることができない歴史なども知れた」「情報はネットにいっぱいあるかも知れないが、温度のある話が聞けた」と双方向の学び合いのニーズはあったと考えられる。</p>
<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>①あった <input type="checkbox"/>②概ねあった <input type="checkbox"/>③あまりなかった <input type="checkbox"/>④ほとんどなかった</p>	
<p>団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。</p>	
<p>団体特性：イベント運営を通じたコミュニティづくりのノウハウ、コミュニティメンバーのはじめの一步を後押しするノウハウ、親子と地域をつなぐノウハウ、就学前の子どもと接するノウハウ 地域特性：子育て世代向けや子どもに理解がある活動、地域を良くする活動を団体が多い。</p>	<p>いずれのクラスも顔見知りではない参加者が限られた時間で打ち解けられるような空間配置やプログラム時間設計、ファシリテーションをおこなったことで、「暖かい空気」「すぐに打ち解けて楽しめた」と参加者が感じた。また会場内に子どもスペースとスタッフを配置したことで「子どもがすぐに馴染んで楽しそうだったので集中して大人の話に参加できた」という感想がある等、子育て当事者が安心して参加できる場を作ることができた。また、スタッフ役のこどももスペースで過ごしたことでスタッフ役も参加しやすくなった。地域特性の点では、お互いの集客に向けて協力し合えたほか、すぎなみ魅力発見クラスでは参加者として参加して下さった方も多く、多世代、多視点で魅力を共有しあえる場の形成に寄与した。</p>
<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>①できた <input type="checkbox"/>②概ねできた <input type="checkbox"/>③あまりできなかった <input type="checkbox"/>④ほとんどできなかった</p>	
<p>当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。</p>	
<p>住民・地域への効果：住民同士で学び合い、教える合うコミュニティ形成による子育てしやすい街づくりへの寄与 団体への効果：認知度向上、主要事業に発展させるための主要クラスの確立や参加者が運営に関わる仕組みづくりに向けた検証</p>	<p>パパビギナークラスは当初想定していた通り、先輩役を準備していたことが学び合いを可能にするために有効であった。逆にすぎなみ魅力発見は運営側がもちネタを用意しておくことは必要であるもの先輩役をあえて立てなくても参加者同士の暮らし方や関心そのものを引き出していくファシリテーションをすることで参加者の満足度は高まった。子育て当事者だけでなく、杉並区の活動団体の方が参加したことをきっかけに、当該団体が提供している助成情報を受けたり、コラボイベントの可能性を打診される等、認知度向上や今後に向けた関係づくりを行うことができた。</p>
<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>①できた <input type="checkbox"/>②概ねできた <input type="checkbox"/>③あまりできなかった <input type="checkbox"/>④ほとんどできなかった</p>	
<p>今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。</p>	
<p>特にすぎなみ魅力発見クラスは、杉並をよく知る方や長年活動をしている方がお互いの情報を共有しようと参加してくださり、弊団体に対する理解を深めていただくきっかけとなったとともに色々な機会を教えていただくなど応援していただける方に出会うことができた。また第3回のまちサロンおきやんちで実施したことで、通常の活動では出会う機会が少ない世代のおきやんちの利用者や運営者に弊団体を知っていただくことができた。</p>	
<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>①広がった <input type="checkbox"/>②多少広がった <input type="checkbox"/>③広がらなかった</p>	

効果・成果
及び
自己評価

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	<p>まちカレの知っていることや経験を持ち寄ることによる双方向の学び合いの趣旨を参加者全員が体感していただけたこと(参加者アンケートより)、プレパパや転入した親子が参加、子育て世代が他世代と交流する多世代参加が実現したことは当初の予定通りであった。結果的には少人数ならではの質の良い場となったが、パパビギナークラスは予定していた人数が集まらず集客に課題があった。また、すぎなみ魅力発見クラスの第2回はまち歩きを予定していたが雨天のため実施できなかった。こどもスペースは親子の参加しやすさに必須であるが子どもの年齢に合わせてスタッフの必要人数が変わるため参加者を安易に増やすわけにはいかなかった。熱中症対策の水分補給のため第1回で茶菓子が必要となりその後毎回準備した。リラックスした雰囲気です話すためにも必要な準備物であった。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input type="checkbox"/>①できた <input checked="" type="checkbox"/>②概ねできた <input type="checkbox"/>③あまりできなかった <input type="checkbox"/>④ほとんどできなかった </p>

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	<p>毎回募金箱を設置した。また、参加者アンケートを行い、基金の認知度、ロゴの認知度、NPO活動の応援意欲(イベントに参加して「杉並区NPO支援基金」を通じて杉並区のNPO活動を応援してみたいと思いましたか)を調査した。アンケート結果は基金の認知度17人中9人(52.9%)、ロゴの認知度17人中6人(35.3%)、NPO活動の応援意欲17人中15人(88.2%)であった。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input type="checkbox"/>①できた <input checked="" type="checkbox"/>②概ねできた <input type="checkbox"/>③あまりできなかった <input type="checkbox"/>④ほとんどできなかった </p>

5 課題と今後の活動について

今後の課題と活動	<p>今回の事業で立ち上げた2つのクラスについて課題対応しつつ質の向上に向けて継続実施を予定している。パパビギナークラスの集客課題については、安易に募集人数を増やさないものの、場の設計と周知方法の見直しで対応する予定である。パパビギナークラスは対話が中心となるため3回連続して参加するインセンティブが働きにくいこと、隔週は参加しづらい頻度であったことから、単発参加想定(連続参加も可)、複数回実施する場合は月1回とする。今年の参加者と接点を作ることで単発であってもつながりを作りやすくする。周知方法については、多くの参加者が子育て情報は区報で得ていることが判明したことから、区報で簡潔に伝えるときに、事業を通じて得た方々と協力し合うやり方を検討する。</p>

6 活動状況について

★具体的な活動風景の写真などを貼付



団体名： 特定非営利活動法人まちのおやこテーブル

7 収支決算

事業費	[D]	69,627	助成金	[E]	38,185
-----	-----	--------	-----	-----	--------

	予算額		決算額		決算額内訳
団体負担金		4,000		12,442	
参加費・資料代等		60,000		19,000	@1000円19名(ハバビギナークラス第1回3名、第2回3名、第3回2名、すぎなみ魅力発見クラス第1回3名、第3回8名)
その他の収入					
計	[C]	64,000	[F]	31,442	自己資金等
助成金	[B]	100,000	[E]	38,185	NPO活動資金助成金
合計	[A]	164,000	[D]	69,627	

費目	予算額		決算額		決算額内訳
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費	
①謝礼金等 (講師が団体内部の場合には対象外)					
小計	10,000	0	0	0	
②旅費・交通費			10,140		従事者交通費(7/9 4名、7/23 2名、8/6 3名、11/12 4名、12/10 3名 自宅～会場往復電車運賃)
小計	12,600		10,140	0	
③備品費・消耗品費			2,738		感染症対策グッズ
				3,511	文房具購入
				1,000	資料コピー代
小計	3,200	20,000	2,738	4,511	
④通信運搬費				2,000	宣伝協力費
小計	30,000		0	2,000	
⑤印刷製本費 (デザイン・原稿作成含む)			4,570		チラシ印刷1000枚
			7,000		チラシデザイン料
			3,380		チラシ印刷 500枚
小計	20,000		14,950	0	
⑥使用料・賃借料				8,400	会場使用料(本番3回、下見1回)
				6,200	会場使用料(本番2回)
小計		40,000	0	14,600	
⑦その他の経費			6,000		現地ボランティア実費弁償@1500*4名
				10,331	イベント実施茶菓子(ハバビギナークラス2回、すぎなみ魅力発見クラス3回)
			4,357		行事保険
小計	24,200	4,000	10,357	10,331	
合計	[B]	[C]	[E]	[F]	61,815 戻入額[B]-[E]
	100,000	64,000	38,185	31,442	
	[A]	164,000	[D]	69,627	

☆ 注意事項(1)単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。(2)団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。

NPO活動資金助成金対象事業報告書(令和4年度)

団体名	特定非営利活動法人モナミセブン
事業名	親や先生に知ってほしい「子どもの高次脳機能障害」
事業(該当区分に○)	①.スタートアップ事業 2. ステップアップ事業
事業概要	事故や脳の病気などで脳のはたらきに影響が出る事により子どもの様子が変わり、学校でのいじめ・不応・不登校などにつながる「子どもの高次脳機能障害」の啓発事業です。保護者や教員、保育者、医療者、教育・保育に携わる方々を対象に、講演とシンポジウムを実施、その内容をリーフレットにして区内の関係機関に配布します。
事業目的	病気や事故で高次脳機能障害になる子どもの90%は通常学級に復帰します。社会的にはほとんど知られていない子どもの高次脳機能障害を、本企画を通じて広く知らせることで、大人よりはるかに対応の難しい高次脳機能障害の子どもへの適切な支援につなげたい。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実施状況	①実施対象者・対象人数(延べ人数):【対象者】区内【講演会・シンポジウム】教育機関関係者200人、家族・当事者200人、福祉機関関係者100名(会場参加200名Zoom参加300名)【リーフレット配布】800か所	【講演会・シンポジウム】【参加人数】会場参加者35名 Zoom参加者33名 【リーフレット配布】学校等117か所、幼稚園・保育所301か所 子育て支援関連102か所、杉並区近隣病院15カ所 区内小児科専門医院17か所 杉並区内相談支援事業所39か所 高次脳機能障害関連団体46か所 その他区内事業所、民生児区役所担当部署などに配布
	②実施内容 :【講演会・シンポジウム】講演者に小児期高次脳機能障害を研究する岩崎也生子氏(杏林大学保健学部准教授)を迎え、高次脳機能障害児の受傷後、家庭や学校、支援機関等が抱える課題などに関する講演 シンポジストに小児期に高次脳機能障害を発症した高次脳機能障害者を迎え、彼らが育ってきた中で実際に体験した困難や、学校での体験を聞く。 【子どもの高次脳機能障害リーフレット配布】講演会内容とシンポジウム記録をもとに、子どもの高次脳機能障害への理解を促進するリーフレットを作成し、区内の小中学校、幼稚園、保育園、医療/相談機関、児童館/放課後デイ、その他計800ヶ所に2000部を配布。	【講演会・シンポジウム】講演者:杏林大学保健学部作業療法学科准教授岩崎也生子氏 演題:「高次脳機能障害 小児期発症の課題と対応」【シンポジウム】司会:1名、シンポジスト1名(当事者) テーマ:小児期に高次脳機能障害になって体験したこと—小児期に発症した高次脳機能障害者から伝えたいこと 【リーフレット配布】高次脳機能障害を発症した子どもの視点と発達心理学の見解から、高次脳機能障害になった子どもの行動を紹介し、障害に対する対応方法をイラストと短文にまとめた内容のリーフレットである。A5判28ページ2000部を印刷し、杉並区内の小中学校、幼稚園、保育園、児童館、医療/相談機関、子育て支援機関、その他東京都区西部医療圏内の高次脳機能障害に関係する病院、高次脳機能障害関連団体など約800か所に郵送または訪問により配布した。
	③実施回数・スケジュール・実施場所 【講演会・シンポジウム】【実施回数】1回 【スケジュール】10月10日(月・祝)13:30~16:30(予定) 【実施場所】杉並区勤労福祉会館(予定) 【子どもの高次脳機能障害リーフレット配布】【リーフレット作成場所及び配布方法】モナミセブン事務所等にてリーフレット作成し、郵送または訪問配布【作成・配布期間】リーフレット作成に2か月半程度、配布に延べ10日	【講演会・シンポジウム】実施日時:2022年9月23日(金・祝)13:30~16:00 場所:ワイルド貸会議室荻窪A・B室 なお会場は利用申込をしたが抽選に漏れ、区内で利用可能な施設の申込抽選にも漏れたため、民間のレンタル会議室(定員200名)を利用することとなり、コロナ禍ということもあり参加人数を縮小せざるを得なかった。 【リーフレット配布】原稿作成と編集が遅れたため、スケジュール通りに印刷することができず、配布時期が印刷完成が2023年2月となったが、2月中に関係機関に約1,500部、郵送ないし訪問にて配布を終了した。
	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況)【講演会実施体制】実行委員会を構成(法人会員8名) 当日の人員配置として法人会員・ボランティア13名を予定 【リーフレット作成・配布体制】作成事務作業・配布作業は当法人会員、編集デザイン及び印刷は外部委託	【講演会実施体制】と【リーフレット作成・配布体制】は 計画通りに実施できたと思う。
	⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況):当法人ホームページとすぎなみ協働プラザ内のホームページへの掲載などインターネットによる広報や、区広報への掲載などにより一般区民への広報活動を行うと同時に、区内教育機関、保育所、福祉機関、東京都心身障害者福祉センター、都内各医療圏の中核病院への「杉並区の助成を受けて行う事業」として案内状を発送を予定	講演会会場の決定に時間がかかったため、予定していた区広報への掲載はできなかったが、ホームページへの掲載などインターネットを利用した広報活動を予定通り行い、案内状による関係機関への広報や、区内施設に設置されているチラシスタンドへのチラシ配置などによる広報活動も行った。

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

	事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。	
	<p>小児期発症の高次脳機能障害児への対応に苦慮している教育機関(主に小・中学校)の関係者や家族・当事者、保育所等福祉機関の関係者は少なくないと考え、最新の情報へのニーズは高いと考えていた。</p>	<p>目に見えない中途障害障害である子どもの高次脳機能障害に関する啓発活動を地道に継続していくことが今後の課題として示された。それは、講演会・シンポジウムの内容は、参加者全員が、事後アンケートに「理解できた」「ほぼ理解できた」と回答しており、内容としては本事業の目的は達成されたと考えられるが、一方で参加人数が想定を大幅に下回ったことから、多くの人を啓発するには至らなかったと考える。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input type="checkbox"/> ①あつた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねあつた <input type="checkbox"/> ③あまりなかつた <input type="checkbox"/> ④ほとんどなかつた</p>	
効果・成果 及び 自己評価	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。	
	<p>「子どもの高次脳機能障害」は、子どもの中途障害としてはその発症が稀ではないにもかかわらず、これまでほとんど注目されてこなかった。今回杉並区NPO活動基金の助成を受けて行う「親や先生に知ってほしい子どもの高次脳機能障害」をテーマにした啓発活動はこの当法人では設立目的の一つである。</p>	<p>今回の講演会・シンポジウムでは、当法人の活動目的が達成された。未だに障害の実態が周知されているとは言い難い中途障害の高次脳機能障害の中でも、特に知られていない「子どもの高次脳機能障害」を、幅広い地域の方々を知っていただくことができ、また事後アンケートでは、参加者に講演内容が理解され、小児期発症の高次脳機能障害者の苦しみが共感されたことが示されたことから明らかだと考えられる。また、配布したリーフレットへは、「とても分かりやすい」「子どもの高次脳機能障害と発達障害との違いがよくわかった」などの反響があったことも当法人の目的にあった活動であったと考える。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった</p>	
効果・成果 及び 自己評価	当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。	
	<p>全国で50万人いるとされる高次脳機能障害は、徐々に周知され始めているが、子どもの高次脳機能障害の情報は極めて少ない。日々、高次脳機能障害児への対応に苦慮している教育機関(主に小・中学校)の関係者や家族・当事者、保育所等福祉機関の関係者は多いと思われ、役立つ情報を提供することが、より良い支援につながると期待していた。</p>	<p>今回の講演会・シンポジウムの内容は、十分に期待していた効果をあげられたと思われる。今回、事後アンケートのすべての項目で、「よくわかった」「大体わかった」という回答が寄せられ、「子どもの高次脳機能障害が発達障害とは違うということが分かった」、「高次脳機能障害になった子どもの困難さを知ることができた」などの感想が寄せられたことから、当初想定した効果はおおむね上げることができたと考える。しかし、参加者数が想定を大きく下回ったことは、幅広く情報を提供するという点では十分に効果を挙げられたとはいえない。以上から「子どもにもある高次脳機能障害」については、継続的に啓発活動を行っていくことが重要であると分かった。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった</p>	
効果・成果 及び 自己評価	今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。	
	<p>この事業を通して、「子どもの高次脳機能障害」の理解者や支援者は広まったと考えられる。今回の2つの事業で、学校や幼稚園、保育園、障害児者施設・事業所、医療機関などで子どもにかかわっている多くの方々に、「高次脳機能障害は子どもにもある」、ということを知らせる機会を得ることができた。「子どもの高次脳機能障害」という言葉を目にすることは、それらの人々が「子どもの高次脳機能障害」の理解者となり支援者となる第一歩である。「高次脳機能障害」という障害は、子どもが発症する中途障害としては数が少なくないわけではないのに社会的な認知度は極めて低い。その「子どもの高次脳機能障害」についての理解者や支援者の広がりを数値として示すことは難しいが、今回の事業が啓発活動としての効果があったということは間違いない。</p>	
<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input type="checkbox"/> ①広がつた <input checked="" type="checkbox"/> ②多少広がつた <input type="checkbox"/> ③広がらなかつた</p>		

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	以下のことから今回の事業はおおむね予定通り実施できたと考える。〔事業予定で達成できたこと〕第1に杉並区内で初めての「子どもの高次脳機能障害」に関する啓発活動である講演会・シンポジウムを実施したこと。第2に杉並区内で初めての「子どもの高次脳機能障害」に関するリーフレットを作成・配布を実施したこと。第3に事後アンケートから、講演会・シンポジウムの内容は、参加者に十分理解されたといえること。〔事業予定で達成できなかったこと〕第1に予定した会場で講演会・シンポジウムを行えなかったこと。第2に講演会・シンポジウム参加者数が当初想定した数に達しなかったこと。
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった</p>

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	今回の事業では、チラシなどの配布物にはすべて「杉並区NPO支援基金」の助成による事業であることを明示した。また講演会・シンポジウムでは、「杉並区NPO支援基金」ののぼりを掲示し、募金箱を設置した。それにより、少額ではあるが、募金することができた。これらのことから、普及・啓発活動はできたと考える。
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった</p>

5 課題と今後の活動について

今後課題の活動	今回の事業を実施したことから、次のようなNPO法人としての課題が示され、それを実現するための方略を見出し、計画実施していきたい。〔課題1〕講演会・シンポジウムなどだけでなく、ニュースレターの配布などを行い、啓発活動を継続的に行っていくことが重要である。〔課題2〕「子どもの高次脳機能障害」に関する相談支援だけでなく、「高次脳機能障害塾」といったリメディアル教育に特化した支援活動を実施して、就学中の高次脳機能障害児に対する一人ひとりの障害に適切な支援を継続的に行っていくことが喫緊の課題である。〔課題3〕これらの活動を携わる継続的な支援者の確保と財政基盤の充実が必要である。
---------	---

6 活動状況について

★具体的な活動風景の写真などを貼付





7 収支決算

事業費	【D】	527,763	助成金	【E】	200,000
-----	-----	---------	-----	-----	---------

	予算額		決算額		決算額内訳
収入	団体負担金	544,932		319,653	
	参加費・資料代等			7,200	参加費 @300円×24
	その他の収入			910	寄付
	計	【C】 544,932	【F】 327,763		自己資金等
	助成金	【B】 200,000	【E】 200,000		NPO活動資金助成金
	合計	【A】 744,932	【D】 527,763		

費目	予算額		決算額		決算額内訳
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費	
①謝礼金等 (講師が団体内部 の場合は対象外)			20,000	10,000	講演者謝礼 @10000×3時間×1名
			6,000		体験談発表謝礼 @3000×1時間×2名
	小計	101,250	68,250	26,000	10,000
②旅費・交通費				5,000	講演者1名
				2,000	体験談発表 @1000×2名
				2,000	映像機器運搬費(1回)
小計		53,000	0	9,000	
③備品費・消耗品費				2,167	文具、スティックのり
				5,828	封筒、ラベル、便箋
				1,430	封筒、スティックのり
小計			0	9,425	
④通信運搬費				47,208	チラシ郵送代 562所
				740	チラシ運搬費
				96,970	冊子郵送費550所
小計		169,350	0	144,918	
⑤印刷製本費 (デザイン・原 稿作成含む)				12,930	講演会資料60部印刷(インク代)
				7,990	講演会チラシ作成 2,000枚
			52,350	80,000	デザイン・原稿作成費
小計	52,350	147,860	52,350	19,150	A5判 24ページ フルカラー印刷 2000部 71,500円
⑥使用料・賃借料			121,650	21,350	会場使用料(ワム荻窪)143,000円
	小計	46,400	32,400	121,650	21,350
⑦その他の経費				10,000	ボランティア旅費 @2000×5名
				3,000	ボランティア謝礼1名
	小計		74,072	0	13,000
合計			200,000	327,763	0 戻入額【B】-【E】
	【B】 200,000	【C】 544,932	【E】 200,000	【F】 327,763	
	【A】 744,932		【D】 527,763		

☆ 注意事項(1)単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。(2)団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。

NPO活動資金助成金対象事業報告書(令和4年度)

団体名	特定非営利活動法人久我山から一
事業名	久我山イマ→ミライ学校 ～多世代で創る地域の環～
事業(該当区分に○)	1. スタートアップ事業 <input type="radio"/> 2. ステップアップ事業 <input checked="" type="radio"/>
事業概要	(1)子供弁当の提供及び交流活動により地域の子育て支援に寄与する。 (2)「こども弁当プロジェクト」との連携強化により、こども弁当活動を杉並区全般に広げる。 (3)様々な繋がりを活用し、新しい地域事業の展開や企画を考える。
事業目的	(1)「久我山こども弁当」を本格的な事業化を目指す。 (2)「こども弁当プロジェクト」の杉並での拠点を1か所以上増やす。 (3)本事業での様々な繋がりを活用して、新たな地域事業を1～2事業企画・開始する。 以上により、久我山と杉並の未来を創造する事に寄与する。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

実 施 状 況	事業計画	事業実施結果	
	①実施対象者・対象人数(延べ人数) 地域の子育て世帯・1回20人(延べ800人)		地域の子育て家庭・2月末現在、48家庭155人
	②実施内容 給食(久我山こども弁当の販売)		計画通り 複数のお菓子をおまけにつけて提供。 お菓子を選ぶ時の子どもの笑顔でこちらも笑顔になっています。
	③実施回数・スケジュール・実施場所 年間40回・基本毎週金曜日16:00～18:00 久我山から一事務所(久我山3-41-44)		毎日実施
	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) お弁当作りは、本体の株式会社オフィス久我山が行っている、配食事業で食材、設備、人員等、全て確保済み		計画通り
	⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) チラシ配布、団体ホームページ、SNS等により周知		ほたる祭りで500部、2月に近隣小学校他に2000部、チラシ配布ホームページには掲載済み SNSもInstagram、LINEにて実施
実 施 状 況	事業計画	事業実施結果	
	①実施対象者・対象人数(延べ人数) 地域の中中学生以下の世代・1回3人(延べ60人)		実施せず
	②実施内容 リフレッシュ活動、必要により学習支援		実施せず
	③実施回数・スケジュール・実施場所 基本毎週金曜日15:00～18:00 久我山から一事務所(久我山3-41-44)		実施せず
	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) 現役大学生、塾講師経験者も確保済み、囲碁将棋・トランプ等に関しては、オフィス久我山ケアセンターの協力の下、地域の高齢者の協力を募る予定		実施せず
	⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) チラシ配布、団体ホームページ、SNS等により周知		実施せず

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

		事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。		
	こども弁当には潜在的な需要がある。	代表者自身が杉並区で子育てしてきた経験もあり、ニーズは予想できたが、実際に利用頂いた方からの声から、相当数のニーズがある事は把握できた。周知活動の徹底と受け渡し場所を利便性の良い場所等にする等の工夫が必要。 【いただいた意見の一部】 ・(お弁当のおかげで)子どもとゆっくりできる時間が過ごせる。 ・共働きで毎日の家事負担が大きい。このようなお弁当のサービスがあると精神的にも助かる。 ・子どもの健康のためには、コンビニや外食は避けたい。たまには食事のことを何も考えない日があればいいと思う。お惣菜屋さんがキッチンカーで近所に来たら利用したい。	
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
	<input checked="" type="checkbox"/> ①あった <input type="checkbox"/> ②概ねあった <input type="checkbox"/> ③あまりなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどなかった		
	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。		
	母体である企業が行っている、配食サービスとの協力体制により実施しやすい活動である。	計画通りであることがわかった。	
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
	<input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった		
	当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。		
	継続的に子育て支援に寄与できる。また、必要に応じて保育園や学校、商店会、行政と連携し、より良い子育てにつながる。	子育て支援には寄与できた。連携は今後、事業を継続していく中でやっていきたい。	
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください			
<input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input checked="" type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった			
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。			
実際に利用していただいた方の評判は良く、リピーターも獲得できた。子育て家庭以外の近隣住人の理解者も増えてきている。			
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください			
<input type="checkbox"/> ①広がった <input checked="" type="checkbox"/> ②多少広がった <input type="checkbox"/> ③広がらなかった			

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	コロナの影響や食中毒の不安、本業の忙しさもあり、定期的な集まるというイベントは開催できなかった。お弁当に関しては、集客は不十分だったが、毎日行うよう変更することで、今後の継続的な活動についてのイメージはできた。
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください <input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input checked="" type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	2月に近隣小学校にチラシを配布した際に、多少はできたのではないかと考えている。
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください <input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input checked="" type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった

5 課題と今後の活動について

今後の課題と活動	ニーズから、活動の意義や重要性が分かったので、定期的に活動の宣伝をしながら、活動を継続していく予定である。
	現事務所が建て壊しの為、法人住所を武蔵野市に移転予定だが、久我山こども弁当の活動は継続していく。また、移転先の小学校区域でも実施予定。移転に合わせて法人名称も変更予定。移転に伴い、お弁当の提供場所を変更予定(候補地複数あるも調整が必要)。イベント2に関しては要再検討。

6 活動状況について










7 収支決算

事業費	[D]	75,815	助成金	[E]	17,015
-----	-----	--------	-----	-----	--------

	予算額		決算額		決算額内訳
収入	団体負担金	11,000		12,300	
	参加費・資料代等	210,000		46,500	@300×155食
		6,000		0	
	その他の収入				
	計	[C] 227,000	[F] 58,800		自己資金等
	助成金	[B] 180,000	[E] 17,015		NPO活動資金助成金
	合計	[A] 407,000	[D] 75,815		

	予算額		決算額		決算額内訳	
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費		
支出	①謝礼金等 (講師が団体内部 の場合は対象外)		0	0	イベント2、実施せず	
	小計	40,000	40,000	0	0	
	②旅費・交通費					
	小計			0	0	
	③備品費・消耗品費					
	小計	120,000	156,000	0	0	
	④通信運搬費					
	小計			0	0	
	⑤印刷製本費 (デザイン・原 稿作成含む)			17,015	58,800	用紙:@1760×5 印刷代:@100×500枚 小学校ちらし
	小計	10,500	10,500	17,015	58,800	
	⑥使用料・賃借料					
	小計	7,500	7,500	0	0	
	⑦その他の経費					
	小計	2,000	13,000	0	0	
	合計			17,015	58,800	162,985 戻入額[B]-[E]
		[B] 180,000	[C] 227,000	[E] 17,015	[F] 58,800	
	[A] 407,000		[D] 75,815			

☆ 注意事項(1)単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。(2)団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。

NPO活動資金助成金対象事業報告書(令和4年度)

団体名	特定非営利活動法人グローイングピープルズウィル
事業名	ICTを活用した移動制約者のための移動円滑化計画
事業(該当区分に○)	1. スタートアップ事業 (2.) ステップアップ事業
事業概要	杉並区・JR東日本・当該商店会と協力して、JR阿佐ヶ谷駅から阿佐谷地域区民センター間において、「ナビレンス」を活用し、スマホを携帯する移動制約者を含む全ての人に対して商店情報を提供し両地点までのスムーズな移動を保障する一手法としての社会実験を行う。このハード整備だけでなく、同時に別事業で「歩きスマホ」の定義を区民と考える。
事業目的	杉並区は基本構想において誰一人取り残さないICT環境を目指しています。その環境整備の一手法として今回の社会実験を行います。具体的には、視覚障害者が当該ルートにストレスなく移動することの確認と情報障害者である視覚障害者が沿道商店の情報を獲得することで商店の賑わいの一助となり、かつ商店会の障害理解を深めること。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	①実施対象者・対象人数(延べ人数) 視覚障害者 20名	視覚障害者18名 内訳:ロービジョン者10名 全盲8名
	②実施内容 JR阿佐ヶ谷駅改札口から杉並区立阿佐谷地域区民センターまで、かつ当区民センター内にナビレンスのタグを敷設し、誘導と情報提供の効果を確認する。東向きに移動する場合は、阿佐谷地域区民センターまでの移動情報、車道を横断する際の警告情報とナビタグ添付直近の商店の紹介とし、西向きに移動する場合は、JR阿佐ヶ谷駅までの移動情報、車道を横断する際の警告情報とナビタグ添付直近の商店の紹介を考えている。 沿道商店の意向を取り入れて商店の紹介をするが、ナビレンスに入れる情報と、その間隔はナビレンス本社と打ち合わせを行って決定する。	事業計画通り
	③実施回数・スケジュール・実施場所 18回 11月13日(日)～11月26日(土) JR阿佐ヶ谷駅～阿佐谷地域区民センターまでの高架下および阿佐谷地域区民センター内	事業計画通り
	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) 実証実験前2か月間:実施場所に50か所のナビタグの内容と貼付位置を決定する。 実証実験期間中:1日一人の被験者に対して二人のスタッフが同行してナビタグの効果を調べる。	事業計画通り
	⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) 当法人ホームページ、通信で広報する。	視覚障害者にとってナビレンスは非常に関心が高く、口コミ(メール等)で広まる。 多くの視覚障害当事者からの問い合わせがあり現地を見学していた。大学教授、建築家、企業等の開発研究者が訪れた。

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

	事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。	
	<p>杉並区は、効果的で安価な手法を採用して障害者・高齢者の移動円滑化を達成するニーズがある。視覚障害者当事者は、外出して周りの情報を獲得する術がなく自ら情報獲得したいという強いニーズがある。阿佐谷地域区民センターの設計は当事者を巻き込んで行った画期的なものであり、ある程度のバリアフリー（BF）は実現した。しかし、彼らの真のニーズは、建物内のBFだけでなくそこに到達するまでのアクセスの確保と、沿道の様子を知る事であった。</p>	<p>ナビレンスを活用することで沿道情報をストレスなく能動的に獲得することは確認できた。情報取得と同時に視覚障害者の誘導を試みたが、視覚障害者の歩行行動を考慮すると難しいことが分かった。 被験者全員、今回のナビタグの利用方法を熟知したことで、この場に限らず、地域の商店街においてナビタグの設置を望んでいる。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ①あった <input type="checkbox"/> ②概ねあった <input type="checkbox"/> ③あまりなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどなかった</p>	
	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。	
	<p>視覚障害者への情報提供は非常に困難であるが、当団体は約200名の区内在住視覚障害者に正しくこの活動の情報を提供できる。同時にこの活動を広く国内に発信できる。 杉並区としては、移動制約者が出かけなくなるまちづくりを目指すため、駅周辺の商業活性化、移動円滑化をICT技術を活用する。</p>	<p>視覚障害者への情報提供は非常に困難であるが、今回の活動は、200名以上の視覚障害者、200名以上の視覚障害支援者に伝えることができています。 18名の被験者は、今回のICTを活用することで自分たちが確実に商業施設における情報取得ができることがわかった。 実証実験2週間で多くの視覚障害者がスマホを活用して情報取得をしている姿を目にすること、また彼らが来店することで理解は深まったと考える。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった</p>	
	当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。	
	<p>まず、視覚障害者がスマホを活用して単独移動できる環境づくりを創出すること。それを可能にすることで杉並区が進めるDXも進めることができる。 杉並区バリアフリーマスタープランを実現化する一助になる。</p>	<p>商店会通行中に、各商店の情報を得ることができ単独での買い物の楽しみ、食事の楽しみを味わうことができる。 晴眼者が、歩きながら歩行と関係のない情報を獲得する「歩きスマホ」と視覚障害者が移動するために情報を獲得するスマホ利用の違いを発信することのきっかけづくりになった。</p>
<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった</p>		
	今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。	
	<p>高架下の3商店会である ビーンズてくて、ゴールドストリート、ある一くの各商店、これらの商店会をまとめているジェイアール東日本都市開発の担当者の皆様には、視覚障害者の情報取得の難しさを理解してください。</p> <p>実証実験中、関心を見せた通行人にはチラシをお渡ししていますので、私たちが日常的に活動する場でない所で理解は深まったと思います。</p>	
<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ①広がった <input type="checkbox"/> ②多少広がった <input type="checkbox"/> ③広がらなかった</p>		

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	<p>この事業を完了するためには、スペインの企業であるナビレンスを完全に理解し、さらに実証実験開始までの2か月間は、ナビレンスの機能、設定方法等を完全にマスターする必要があったが、それが達成できた。 この実験準備を完了したこと、実証実験を事故なく無事完了したことで今回の事業は成功だと考えている。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	<p>当法人ホームページ(実証実験中)、当法人通信を通して普及活動を行った。いくばくかの寄付も集まった。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>

5 課題と今後の活動について

今後課題と活動	<p>当法人は、今後も視覚障害者に対して情報提供と移動円滑化を図っていく。特にICTの活用は杉並区も基本構想で謳っているので、ICTを活用した取り組みが非常に重要だと考えています。 スマホを持つことが前提ですので、視覚障害者にスマホを普及する活動も重要だと感じています。また、「歩きスマホ」という言葉が独り歩きしないような活動も必要だと感じています。</p>
---------	---

6 活動状況について

★具体的な活動風景の写真などを貼付



7 収支決算

事業費	【D】	318,867	助成金	【E】	150,000
-----	-----	---------	-----	-----	---------

収入		予算額		決算額		決算額内訳
	団体負担金		253,000		168,867	団体負担金
	参加費・資料代等					
	その他の収入					
	計	【C】	253,000	【F】	168,867	自己資金等
	助成金	【B】	150,000	【E】	150,000	NPO活動資金助成金
	合計	【A】	403,000	【D】	318,867	

支出	費目	予算額		決算額		決算額内訳
		助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費	
	①謝礼金等 (講師が団体内部 の場合は対象外)				54,000	被験者謝金 3,000円×18人
	小計		30,000	0	54,000	
	②旅費・交通費				32,000	西荻窪-三宮 往復 新幹線(東京-新神戸) 三宮での実証実験視察
	小計			0	32,000	
	③備品費・消耗品費				1,958	脚立
					1,524	ラミネート 100枚
					1,000	マグネット両面テープ
	小計		21,000	0	11,510	マグネット両面テープ、磁石ピン、ラミネート 100枚、シート
	④通信運搬費					
	小計			0	0	
	⑤印刷製本費 (デザイン・原 稿作成含む)				2,140	チラシ(実証実験説明) 400部 作成
					2,097	マグネット用紙
					964	コピー用紙
	小計		12,000	0	5,201	
	⑥使用料・賃借料			150,000	58,924	ナビレンス ライセンス使用料
	小計	150,000	190,000	150,000	58,924	
	⑦その他の経費				1,148	両面テープ
					1,148	両面テープ
					2,296	両面テープ
	小計			0	7,232	両面テープ
	合計			150,000	168,867	0 戻入額【B】-【E】
		【B】 150,000	【C】 253,000	【E】 150,000	【F】 168,867	
		【A】 403,000		【D】 318,867		

☆ 注意事項(1)単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。(2)団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。

NPO活動資金助成金対象事業報告書(令和4年度)

団体名	特定非営利活動法人DANKAIプロジェクト
事業名	みんなの食堂ルンルンとルンルン学習室(無料)
事業(該当区分に○)	1. スタートアップ事業 <input type="radio"/> 2. ステップアップ事業 <input checked="" type="radio"/>
事業概要	令和3年度に引き続き、近隣の小学生を対象に無料勉強室「ルンルン学習室」を毎週開室し、希望者・保護者等に、終了後に食事を提供(みんなの食堂ルンルン)する。
事業目的	格差の進行に危機感を感じており、ニーズを持つ子どもたちの学ぶ機会と居場所を少しでも増やしたい。また、子ども及び一人暮らし高齢者が一緒に食事し団欒の機会を作ることによって、子どもたちや高齢者の生活に関心を持つ地域コミュニティの創造に貢献したい。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	①実施対象者・対象人数(延べ人数) ルンルン学習室の対象者は小学3年～6年、定員5名程度(延べ人数は175名程度)。みんなの食堂ルンルンの対象者は学習室参加児童とその家族の希望者、定員は8名程度(延べ人数は280名程度)ステップアップとして行うフードパントリーの対象者は限定せず、1回20名程度とする(延べ人数は80名程度)。	ルンルン学習室とみんなの食堂ルンルン共通 助成期間中の延べ参加人数は、小学生102名(1回当たり平均3.6名、以下同じ)、講師・見学など30名(1.1名)、食事提供数は231食(8.3食)であった。フードパントリーは、8月3日、10月26日、12月21日、2月22日の4回行った。申込者は80名(1回あたり20名)であった。8月中旬に夏合宿を行ったため、8月は1回のみ開催した。休止は4回で、実施回数は28回であった。
	②実施内容 ルンルン学習室は参加児童の自習をサポートする。みんなの食堂はルンルン学習室参加児童とその家族の希望者に夕食(カレー)を提供する。食費として児童は100円、大人は300円を徴収する。フードパントリーは、誰でも申し込める形で募集し、1回20名程度とする(延べ人数は80名程度)。	7月6日七夕の飾り付け、9月7日防災教室、12月21日クリスマス会、1月11日書初めを行った。1月12日コロナ感染対策のため、翌週は休止した。 すぎなみ食育推進の会スタッフの協力で、うちわ作りなどのIT学習や防災学習のプログラムを数回、30分程度行った。フードパントリーは10月から近隣大学に案内を掲示してもらったり、SNSでの広報を行ったため、10月以降、大学生の申し込みが増えた。
	③実施回数・スケジュール・実施場所 いずれも毎週水曜日で、学習室は17時30分～18時30分、食堂は学習室終了後から19時30分ごろまで。6月から2022年2月末日まで31回を予定。実施場所はいずれも杉並区善福寺2丁目。	6月1日から2023年2月22日まで、28回実施した。ルンルン学習室は毎週水曜日午後5時30分～6時30分まで(準備は4時開始)、みんなの食堂ルンルンは毎週水曜日午後6時30分ごろ～7時30分まで(8時までに片付け)。フードパントリーは、2回目までは19時開始だったが、20時終了だとスタッフの負担が大きいため、3回目からは17時開始に変えた。実施場所は、すべて杉並区善福寺二丁目である。
	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) 開始前にスタッフとボランティアが会場の清掃と消毒を行い、調理を始める。学習サポートは大学生ボランティアとスタッフ。盛り付け・配膳・片付けは若いスタッフ・ボランティアと学生ボランティアが行う。	学習サポートのボランティア学生人数は延べ37名(1回平均1.3名)、スタッフと一般ボランティア延べ人数は123名(同上4.4名)。開始前の会場清掃・消毒と調理はスタッフとボランティアが担当。学生については亜細亜大学と東京女子大学学生が参加した。参加者には入室時に検温と手指消毒、マスク着用を求めた。対面仕切りアクリル板を設置。換気に配慮した。
	⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) チラシ配布のほか団体WEBサイト・SNS・広報すぎなみ・すぎなみ地域コムを活用する。近隣の小学校(教員など)やコミセンなどに働きかける。	チラシは既成のものをコピーして配布した。団体WEBサイトの更新はあまりできなかった。SNSでの発信を始めた。近隣の小学校の教職員との連絡体制は継続した。コミセンまで手をのばせなかった。フードパントリーの広報は近隣大学に案内チラシの掲示を協力してもらい、効果があった。また、すぎなみ地域コムや地域包括支援センター(ケア24善福寺)にチラシを置いてもらった。

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

		事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。		
	<p>参議院文教科学委員会調査室報告(2020年5月)によると、コロナ感染拡大による休校の中でも、高所得世帯ほど学習塾やオンライン学習等の外部資源を取り入れながら家庭学習を進めている割合が高いが、低所得のひとり親家庭ではふたり親家庭に比べて学習に取り組んでいる割合が全体的に低いことが指摘されており、学習環境の格差がコロナ禍で拡大している。困窮家庭の子どもたちは、通塾割合等が低く、自宅で親に勉強を見てもらう機会も少なく、自宅に落ち着いて勉強をする場所が不十分なことが多い。キッズドア「教育格差背景調査報告書」(2019年2月)では、NPO等が実施する学習支援により、子どもたちの一日当たりの勉強時間が増え、勉強自体も好きになり、勉強に対するやる気・自信の向上につながることが報告されており、地域における子ども食堂・学習室へのニーズは高いと考える。</p>		<p>令和4年度は、常連であった小学生2名が事情により途中から休んだため、参加人数は令和3年度より減ったが、参加児童は家庭、学校に次ぐ第三の「居場所」として魅力を感じてくれているようだ。昨年から継続している児童の学習態度の自主性が増したように感じる。来室してすぐに、持ち込んだ自習教材に取り組むようになり、スタッフが学習を促す必要が少なくなった。小学2年生から4年生までの児童が参加しており、上の学年の児童が下の学年の児童に学習に助言する光景も見られるようになった。また、保護者の紹介で2名の児童が見学・参加し、子ども食堂に関心のある彼らの保護者2名が見学の上、ルンルン食堂の状況を質問してきた。社協の紹介で地元で子ども食堂を始めたいという町内会グループが訪問され、意見交換した。杉並区内の子ども食堂は35を超えるが、会食を毎週実施するところは少ないため、ルンルンが紹介されることが多い。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ①あった <input type="checkbox"/> ②概ねあった <input type="checkbox"/> ③あまりなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどなかった</p>		
	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。		
<p>団体構成員は元気な団塊世代・シニアで、多様な職種の経験者を擁し、シニアや大学生ボランティアの応援を得られやすい特性を持つ。2021年度は亜細亜大学教職課程履修中の学生4名が学習サポーターとして協力、また、養護教員やスクールソーシャルワーカーが運営の協力をしてくれた。すぎなみ子ども食堂ネットワークの仲間と近隣小学校を訪問し、副校長に子ども食堂事業を説明する機会を持った。</p>		<p>スタッフの人脈を活かして、ボランティアセンターを通じて、会場近くの東京女子大学にボランティア募集案内を出し、学生が応じてくれた。前半は亜大生と女子大生でローテーションを組んで、担当してもらった。ソーシャルワーカーが交代して、一度訪問があった。杉並子ども食堂ネットワークの活動の一環で、ドル社のバナナ寄付をめぐる食堂間の連携が生まれ、ネットワーク有志による杉並区長との面談の機会を持つことができた。</p>	
<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった</p>			
当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。			
<p>みんなの食堂や無料勉強室のような活動が地域に多く存在するほど、その地域の社会資源は豊かになる。そうした活動を網の目のように張り巡らし、地域の人々への温かい関心を共有し、安心して楽しく暮らせる地域を作り出す効果を期待する。スタートアップの助成資金を得ることで、スムーズな着手ができ、同時に団体の認知度を高めることができる。これまで高齢者を主な対象としてきた団体の活動を子どもたちへ広げることができる。</p>		<p>スタートアップの助成資金を終えることで、スムーズな事業開始ができた。また、初めての試みであったフードパントリーも、計画通り、4回実施することができ、これまで接しなかった大学生や一般の方々やパイプをつくれた。フードパントリー活動により、困窮家庭の状況の一端を知ることができた。大学生も食に困っていることがよくわかった。スタッフが開拓した東北物産館(吉祥寺)や福島県会津坂下町との協力関係を継続しており、定期的な支援をいただいて、食材確保の上で大いに助かっている。</p>	
<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった</p>			
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。			
<p>区社協やすぎなみ子ども食堂ネットワークを通じて、NPO団体やボランティア団体、JA東京中央との提携が実現し、この提携を継続している。全国子ども食堂支援センターむすびえを通じて、農水省・JAやフードドライブ、企業からの寄付を安定して確保できている。東北物産館や福島県会津坂下町の食材支援も継続している。助成対象外の夏合宿下見のおり、スタッフが福島県会津坂下町を訪問し、子ども食堂活動の理解を深めることができた。区民の方から、ボランティアセンターの仲介で、お米を10キロいただいた。子ども食堂事業を開始しようと計画している区内の町内会関係者がヒアリングに訪れた。</p>			
<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ①広がった <input type="checkbox"/> ②多少広がった <input type="checkbox"/> ③広がらなかった</p>			

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	<p>学習室と食堂は31回程度実施予定のところ、28回実施、フードパントリーも計画通り4回実施できた。参加児童数が、昨年より少し減ったことが残念である。学生ボランティアを、亜細亜大だけでなく、東京女子大にも範囲を広げて募集できたことは、今後実施する上で大きい。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	<p>NPO支援基金リーフレット、募金箱、タペストリーを会場内に設置した。保護者や学校関係者にはNPO支援基金のアナウンスを行なった。さらに、団体作成のチラシと幟旗にはNPO支援基金マークを入れた。団体のホームページ・ブログなどで活動状況を報告する際に支援基金のことに触れたが、こちらはあまり更新できていない。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input checked="" type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>

5 課題と今後の活動について

課題と今後の活動	<p>スタッフの高齢化が進行するので、地域の力を組み込む試みをもっと行う必要がある。地域の社会資源を調べて、いろいろな形で連携・協力関係を生み出していきたい。</p>
----------	---

6 活動状況について

★具体的な活動風景の写真などを貼付



子どもたちの食事スナップ



食事時の会場の様子



7 収支決算

事業費	[D]	138,916	助成金	[E]	112,600
-----	-----	---------	-----	-----	---------

	予算額		決算額		決算額内訳
収入	団体負担金	12,121	9,850		個人宅使用料補助
	参加費・資料代等	30,300	14,400		みんなの食堂大人会費@300円×14名、子ども会費@100円×102名
	その他の収入	1,746	2,066		寄付など
	計	[C] 44,167	[F] 26,316		自己資金等
	助成金	[B] 150,000	[E] 112,600		NPO活動資金助成金
	合計	[A] 194,167	[D] 138,916		

費目	予算額		決算額		決算額内訳
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費	
①謝礼金等 (講師が団体内部 の場合は対象外)			10,000		臨時講師謝礼@4,000円×0.5(30分)×5回
	小計	20,000	0	10,000	0
②旅費・交通費			23,760		スタッフ交通費@880円×1名×27回
	小計	37,280	800	28,760	0
③備品費・消耗品費			2,296	1,204	用紙代、インクカートリッジ代
			2,293		バルーン、バルーンポンプ、金銀折り紙
			21,469	14,400	食材、調味料など
	小計	36,727	31,246	32,868	16,030
④通信運搬費			2,410		切手代
	小計	2,625	0	2,410	0
⑤印刷製本費 (デザイン・原 稿作成含む)			1,000	436	広報用チラシ印刷代
	小計	1,000	0	1,000	436
⑥使用料・賃借料			11,934	9,850	個人宅使用料(28回分)
	小計	12,000	12,121	11,934	9,850
⑦その他の経費			13,200		ボランティア学生交通費@440円×延べ30人分
	小計	40,368	0	25,628	0
合計			112,600	26,316	37,400 戻入額[B]-[E]
	[B] 150,000	[C] 44,167	[E] 112,600	[F] 26,316	
	[A] 194,167		[D] 138,916		

☆ 注意事項(1)単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。(2)団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。

NPO活動資金助成金対象事業報告書(令和4年度)

団体名	特定非営利活動法人てんぐるま
事業名	つながって 支え合おう 杉並プロジェクト
事業(該当区分に○)	1. スタートアップ事業 <input checked="" type="radio"/> 2. ステップアップ事業
事業概要	障害児やその家族を対象として、ベビーマッサージ(月1回)やベビーハンドサイン(月1回)を学ぶサークルを立ち上げ、継続的に主催する。また、障害児の父親でもあり、小児科医でもある山田真氏を招き、講演会(年1回)を開催する。
事業目的	障害児やその家族の交流や仲間づくりの支援、メンタルサポート、悩み相談、情報提供などを目的とする。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	①実施対象者・対象人数(延べ人数) 1.講演会:区内の幼児と親、関係者30名 2.ベビーマッサージ:区内内外の障害児(0~3歳)とご家族(15家族) 3.ベビーサイン:区内外の障害児(乳幼児~未就学児)とご家族(15家族)	実施できなかった。
	②実施内容 1.子育てと自然治癒力についての講演会 (講師:小児科医)参加費500円 2.3.共通:ベビーマッサージ・ベビーサインの後に交流会を催し、家族同士の親睦を深め、子育ての悩みを共有しながら支援に繋がる情報提供をする。事業終了後もサークル活動を継続し、会員募集の中で活動を発展させていく。	実施できなかった。
	③実施回数・スケジュール・実施場所 1.1回開催、2023年2月、阿佐谷地域区民センター 2.3共通:5回開催、2022年9月~2023年2月、永福地域区民センターなど	実施できなかった。
	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) てんぐるま理事7名 ボランティア3名	実施できなかった。
	⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) 法人ホームページ、フェイスブック、区報への掲載、区民センターへのチラシ配布などを予定	実施できなかった。

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

		事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。		
		障害児を持つと、保護者はその後の子育てや将来に大きな不安を抱える。出産時に障害児のサポートや、制度などへの情報が少なく、また、孤立を深める環境にあるため、とくに乳幼児期は悩みや不安を相談する先も見つけることができず、保護者も精神的につらい時期を過ごすことが多い。障害児をもつ同じ保護者として、親の気持ちに寄り添い、助けになりたいと考えた。	実施できなかった。
		【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください <input type="checkbox"/> ①あった <input type="checkbox"/> ②概ねあった <input type="checkbox"/> ③あまりなかった <input checked="" type="checkbox"/> ④ほとんどなかった	
	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。		
		当法人は2012年設立以来、子どもの権利擁護活動および相談事業を行ってきた。2014年の障害者権利条約批准から杉並区に於いて障害児およびその家族の相談を行ってきた。杉並10年ビジョンが一区切りがついて、新しいビジョンが出ているが、現状、ビジョンに届いていない現実があり引き続き取り組んでいく。特に、当法人の活動から、障害者の社会参加と支援の部分について、活動の中心として取り組んでいきたいと考える。	実施できなかった。
		【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください <input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input checked="" type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった	
	当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。		
		<ul style="list-style-type: none"> ・障害児親子が地域で心豊かにいきいきと暮らすことができる。 ・障害児とその家族が心身ともに健やかでいられることにより、地域住民との交流がより一層深まり、共に生きる社会を実現できる。 ・障害児保護者へ行政や福祉サービス、また、民間の支援団体へ早期に繋がるための取り組みをすることにより、本人と保護者が取り残されることがなくなる。 	実施できなかった。
		【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください <input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input checked="" type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった	
	今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。		
	実施できなかった。		
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください <input type="checkbox"/> ①広がった <input type="checkbox"/> ②多少広がった <input checked="" type="checkbox"/> ③広がらなかった		

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	新型コロナウイルス感染拡大の収束が見えない中、スキミングを中心としたイベント内容に対し、特に小さいお子さんを持つ保護者の不安な声があり、当法人としても断念せざるを得なくなった。また、企画した講演会講師の都合がつかなくなり、あきらめざるを得なくなった。
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input checked="" type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった</p>

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	実施できなかった。
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input checked="" type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった</p>

5 課題と今後の活動について

今後の課題と活動	今後も障害児やその家族をエンパワメント出来るような活動を検討したい。
----------	------------------------------------


6 活動状況について

★具体的な活動風景の写真などを貼付

2022年9月から毎月1回のベビーマッサージ・ベビーサインのサークル活動実施に向け、下記の通り準備を行った。
 申し込みフォームの作成→就学相談を受けたご家族などに声掛け・紹介依頼など
 ベビーマッサージ講師：ローリタッチケア協会 上級認定講師 稲葉恵子先生に依頼。
 ベビーサイン講師：渋谷区のベビーサイン活動グループに依頼

会場予約 10/4 永福和泉地域区民センター第1・第2和室→9/20キャンセル
 10/18 永福和泉地域区民センター第1・第2和室→8/9キャンセル
 10/20 永福和泉地域区民センター第1・第2和室→9/20キャンセル
 11/7 高井戸地域区民センター第9集会室→11/1キャンセル
 11/14 高井戸地域区民センター第9集会室→11/1キャンセル
 11/17 高井戸地域区民センター第9集会室→11/1キャンセル
 11/24 高井戸地域区民センター第9集会室→11/1キャンセル

時機をみて収束に向かいそうであれば少しでも開催しようと考えていたが、その兆候が見極めがたいのと集客も困難であったため、全日程新型コロナウイルス感染拡大のため中止とした。



杉並区NPO支援基金

杉並を変えよう
暮らしを変えよう

7 収支決算

事業費	[D]	0	助成金	[E]	0
-----	-----	---	-----	-----	---

	予算額		決算額		決算額内訳
収入	団体負担金	52,400			
	参加費・資料代等	15,000			
		37,500			
		37,500			
	その他の収入				
	計	[C] 142,400	[F] 0	自己資金等	
	助成金	[B] 235,000	[E] 0	NPO活動資金助成金	
合計	[A] 377,400	[D] 0			

	予算額		決算額		決算額内訳	
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費		
支出	①謝礼金等 (講師が団体内部 の場合は対象外)					
	小計	120,000	0	0		
	②旅費・交通費					
	小計	23,500	0	0		
	③備品費・消耗品費					
	小計		32,500	0	0	
	④通信運搬費					
	小計		5,500	0	0	
	⑤印刷製本費 (デザイン・原 稿作成含む)					
	小計	5,000	55,400	0	0	
	⑥使用料・賃借料					
	小計	19,000	29,000	0	0	
	⑦その他の経費					
	小計	67,500	20,000	0	0	
	合計			0	0	235,000 戻入額[B]-[E]
		[B] 235,000	[C] 152,400	[E] 0	[F] 0	
	[A] 387,400		[D] 0			

☆ 注意事項(1)単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。(2)団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。